クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書（改訂第４版）
（行政担当者・施設管理者の皆様へ）

２０２２年6月

地方独立行政法人

大阪府立環境農林水産総合研究所

はじめに

サクラ、モモ、ウメなど主にバラ科の樹木に発生し枯死させるクビアカツヤカミキリの被害が２０１５年に大阪府内で確認されてから７年が経過しました。これまで、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所は、府内の発生状況を調査するとともに、市町村から提供いただいた情報等を取りまとめ（P.3：Topic１）、また、防除技術の開発及び普及（P.5～１６）に取り組んできました。一方、現時点では、府内のクビアカツヤカミキリ被害は年々拡大が続いています。

２０２０年２月に、大阪府は、国、市町村、民間企業、府民の皆様と連携し、効果的にクビアカツヤカミキリの防除を推進するため、「大阪府クビアカツヤカミキリ防除推進計画」（P.４：Topic２）を策定し、大阪府全域（当面は、被害発生市町村とその隣接市町を中心として）において防除活動を行うこととしました。

クビアカツヤカミキリの防除対策では、早期発見、早期防除を徹底すれば、被害を最小限に抑えることが可能です。そのためには、サクラ等のバラ科の樹木が植栽されている公園、道路、学校等の施設、山林や民有地、あるいはモモ等の果樹園において、管理者らが一致協力し、また地域住民などの協力も得ながら、外来生物法を遵守した上で（P.４：Topic３）、早期発見に向けた調査や、被害初期での迅速な防除対策への取組が重要です。

今回の改訂では、バラ科の樹木を管理されている方々が積極的かつ効率的に防除に取り組んでいただけるよう、府内での被害状況や、技術的な対策手法等を最新の情報に更新しました。是非、クビアカツヤカミキリの被害対策に、本手引書をご活用ください。

＜本手引書の内容＞

１　クビアカツヤカミキリはサクラやモモの害虫 ・・・・・・・・ Ｐ２
２　各対策とスケジュール ・・・・・・・・ Ｐ５
（各対策のページ）
・フラスによる被害状況の調査 ・・・・・・・・ Ｐ６
・被害木の伐採、伐採木（剪定枝）の処分 ・・・・・・・・ Ｐ７
・幼虫の刺殺・掘り取り ・・・・・・・・ Ｐ８
・防風ネット等の巻き付け ・・・・・・・・ Ｐ９
・農薬のフラス排出孔への注入、農薬の樹幹注入（サクラのみ） ・・・ Ｐ10
・農薬の噴射、農薬の散布（樹幹散布） ・・・・・・・・ Ｐ11
・被害木のくん蒸、成虫脱出孔の封鎖 ・・・・・・・・ Ｐ12
・生物農薬 ・・・・・・・・ Ｐ13
・クビアカツヤカミキリに使用可能な農薬一覧 ・・・・・・ Ｐ14-16
・若木への植替え、住民への調査・防除の協力の呼びかけ ・・・ Ｐ17
・被害マップの作成・更新、モモ・ウメにおける防除マニュアル ・・・ Ｐ18
３　問い合わせ先 ・・・・・・・・ Ｐ19

1　クビアカツヤカミキリはサクラやモモの害虫

クビアカツヤカミキリ（学名: *Aromia bungii*）

- 分類：コウチュウ目・カミキリムシ科
- 分布：中国、朝鮮半島、ベトナムなど
- 被害樹種：サクラ、モモ、ウメなどバラ科樹木
  生きている樹木を加害し枯らす
- 体長：2～4cm（成虫）
- 特徴：からだ全体が黒く光沢がある
  頭部の下(前胸の一部)が赤く、突起がある
  成虫はジャコウのような匂いを放つ

触角が長いオス・短いメス

クビアカツヤカミキリの生活環

成虫の発生
（6月～8月）

越冬せず当年に死亡

産卵
（6月～8月）

樹皮の割れ目に産卵
孵化後、樹内部に食入

幼虫の摂食
（4月～11月）

フラスの排出

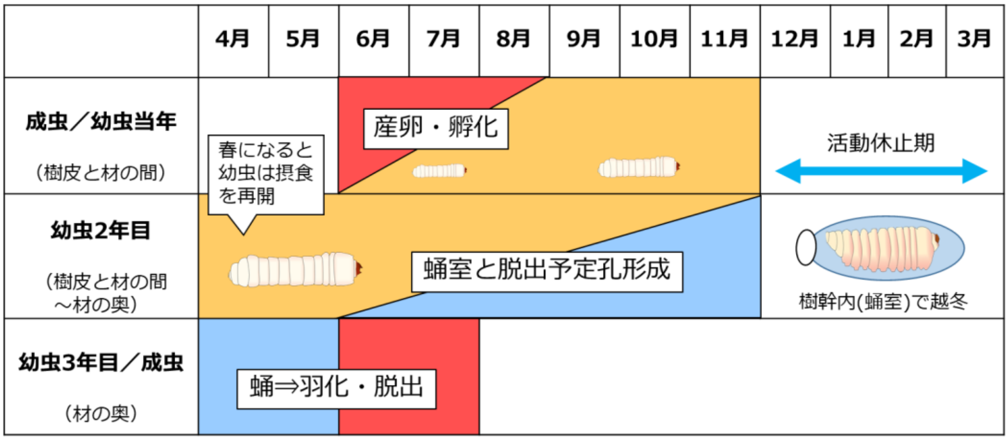
脱出予定孔形成
（樹皮に注目）

蛹化

羽化脱出（6月～7月）

成虫の脱出孔（縦長）

2年1化を想定した生活環



成虫：●　　幼虫：●フラス排出あり　●フラス排出なし（蛹室形成後～）

※日本国内における幼虫期間は１～３年（主に２年）

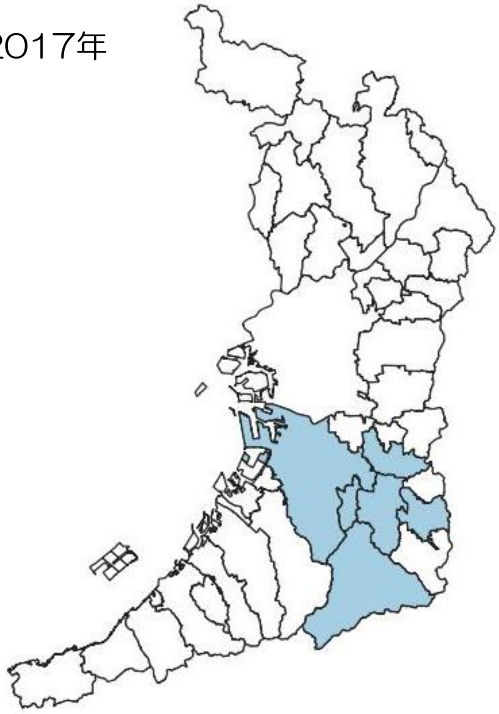
TOPIC 1　大阪府における被害状況

2017年7月～10月に南河内地域を中心にフラス排出の有・無から被害状況を調査し、6市町で本種によるとみられる被害を確認しました（左図）。

2022年（3月末時点）に16市町村で被害を確認しています（右図）。

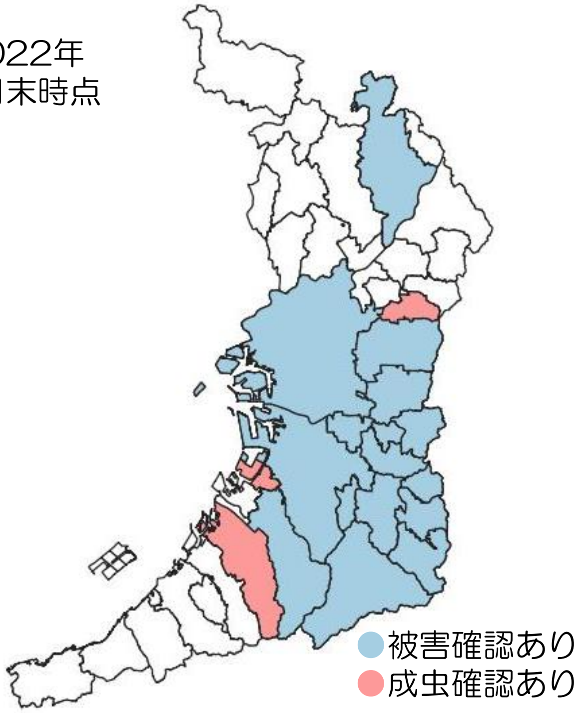
また、岸和田市、大東市、高石市では成虫が確認されています。

2017年



堺市、富田林市、河内長野市、
羽曳野市、大阪狭山市、河南町

2022年
3月末時点

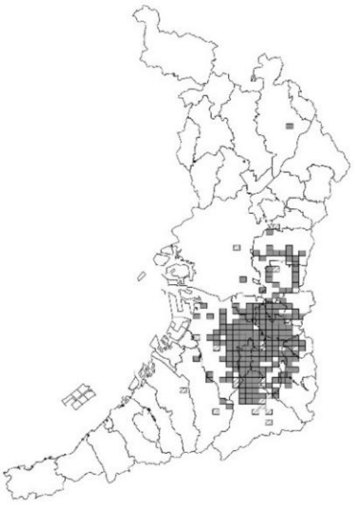


大阪市、堺市、高槻市、八尾市、富田林市、
河内長野市、松原市、和泉市、柏原市、
羽曳野市、藤井寺市、東大阪市、大阪狭山市、
太子町、河南町、千早赤阪村

クビアカツヤカミキリ被害分布図

大阪府は、被害の把握および防除対策への活用のため、市町村による被害調査の結果等をもとに、クビアカツヤカミキリ被害分布図（2015年からの約1km×約1kmメッシュ単位の被害の累積データ）を大阪環農水研の協力により作成しています。

2021年10月末時点の被害分布図



※■被害地域もしくは成虫のみ確認した地域

TOPIC2　大阪府クビアカツヤカミキリ防除推進計画

大阪府では、２０２０年２月に、府や国、市町村、民間企業、府民等が連携し、効果的にクビアカツヤカミキリの防除を推進するため、「大阪府クビアカツヤカミキリ防除推進計画」が策定されました。
（http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21489/00294999/kubiakatuyakamikiri.boujyokeikaku.pdf）

本計画は、生活環境、農業及び生態系への被害軽減と、分布域の拡大防止を目標とし、府内でのクビアカツヤカミキリによる被害の根絶に努めることとしています。また、地域の被害状況に即した対策を実施することが効果的とし、「被害発生地域」、「被害発生地隣接市町」、並びに「被害未発生地域」における防除対策や予防対策についてまとめているので、「Topic1大阪府内における被害状況」（P.3）を参考に、各地域での取組を検討ください。クビアカツヤカミキリによる被害地域の拡大を防ぐためには、早期発見、早期防除が非常に重要ですので、迅速な対応をいただければ幸いです。

TOPIC3　特定外来生物の指定と日本国内における被害状況

クビアカツヤカミキリは、2018年1月に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」による特定外来生物に指定されました。これにより、飼養、保管、運搬、輸入、野外への放出などが原則禁止となります。

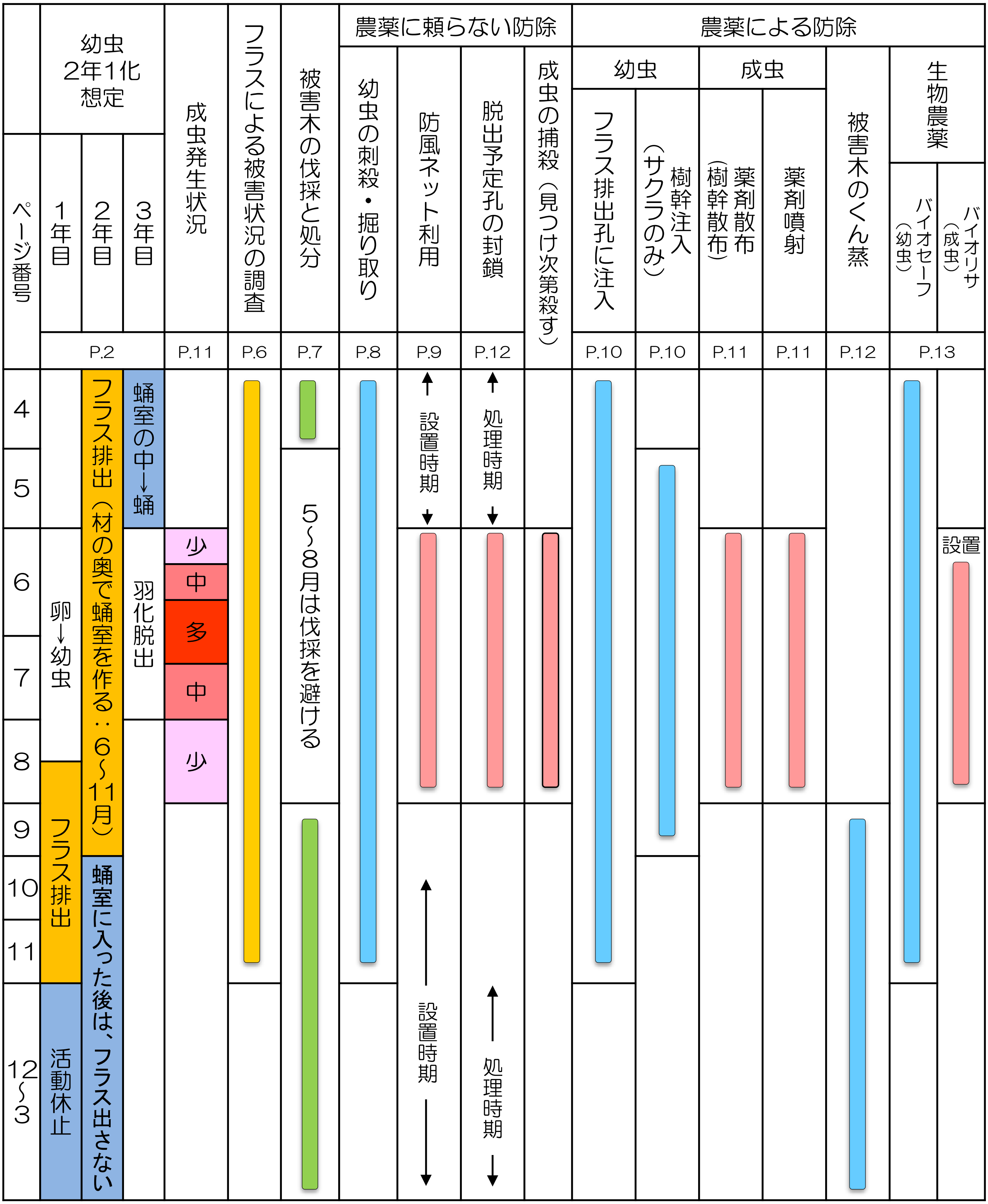
特定外来生物は、防除対策をとらず放置しておくと分布を拡大し、農林水産業等（モモやウメ等の果樹類）に被害を及ぼすおそれがあることから、必要に応じて駆除することとされています。また、公園等の緑化木（サクラ類）においては、被害木の枯損や落枝等が発生しないよう配慮が必要です。

2021年時点では、以下の1都1府9県で被害が報告されています。

2012年 愛知県
2013年 埼玉県
2015年 大阪府、群馬県、東京都、徳島県
2016年 栃木県
2019年 茨城県、三重県、奈良県、和歌山県
2021年 神奈川県

２　各対策とスケジュール

●フラス調査　●被害木の伐採　●幼虫防除　●成虫防除



フラスによる被害状況の調査

クビアカツヤカミキリの被害は、生きている樹木の幹や根から幼虫が排出するフラス（木くず・糞の混合物）の特徴①～③により、概ね判断することができます。

バラ科樹木には、クビアカツヤカミキリ以外にコスカシバ等のスカシバガ類やゴマダラカミキリが穿孔し、フラスを排出します。

顆粒状で少量

主に地際から排出され、
長い繊維状に裂けたフラスが多い

被害木の伐採

　被害木を伐採し、破砕あるいは焼却して適切に処分を行うことは、被害の拡散を防止する観点から、最も有効な防除方法のひとつです。

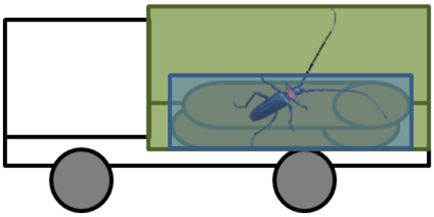
　被害を受け枯死・衰弱した木は、強風などにより倒木や落枝が発生しやすくなることから早期に伐採することを検討ください。

・伐採時期：９月～翌年４月（成虫の脱出時期以外）
・留意事項：
－ 飛び地的にフラス被害が確認された被害木は、周辺への被害拡散の可能性を考慮し、直ちに伐採し、処分することを検討してください。
－ 防除が困難な部位に被害が見られる枝は、分岐している箇所から切除し処分してください。
－ 切株を極力残さないように、出来るだけ地際で伐採してください。

伐採木（剪定枝）の処分

・破砕：現地でチッパーにより、又は近隣のチップ工場で、破砕してください。
　チップの厚さは１０mm以下程度としてください。
・焼却処分：市町村の清掃工場で焼却可能な場合は、伐採木を防風ネット又はビニールシートで覆って飛散防止措置をした上で運搬し、焼却処分してください。
・伐根：伐採と同時に伐根可能な場合は伐根し、破砕または焼却処分をしてください。
　伐根できない場合、切株を防風ネットやビニールシートで二重に被覆してください（２年程度）。

破砕



飛散防止措置

根株の被覆

被害木を処分する前に内容を必ず確認ください

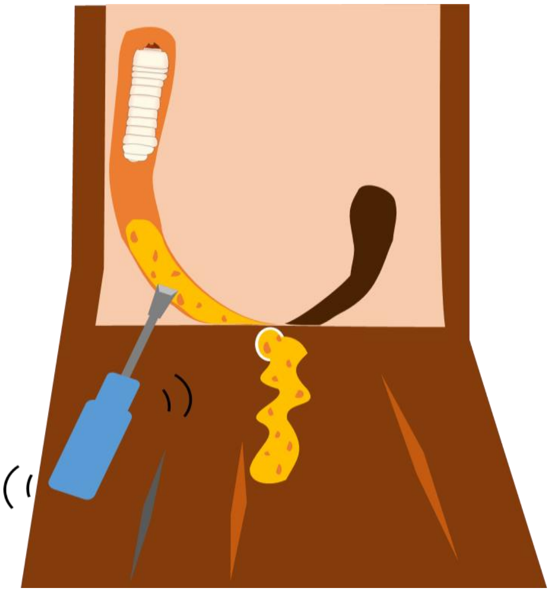
「外来生物法」は指定された種の保管や運搬等を禁止していますが、クビアカツヤカミキリの運搬及び保管については環境省から通知「外来生物法の規制に係る運用（クビアカツヤカミキリの運搬及び保管）」（https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/files/190326kubiaka_tsuuchi.pdf）が発出されていますので、処分前に内容を必ず確認ください。

幼虫の刺殺・掘り取り

幼虫の刺殺

　樹幹や根から排出するフラスを掻き出し、幼虫が食入してできたトンネル（以下、坑道）内の幼虫を長い針金などで刺殺します。ただし、幼虫は樹幹内を不規則な方向に食べ進むため、坑道が曲がりくねって針金が届かないこともあります。

幼虫の掘り取り



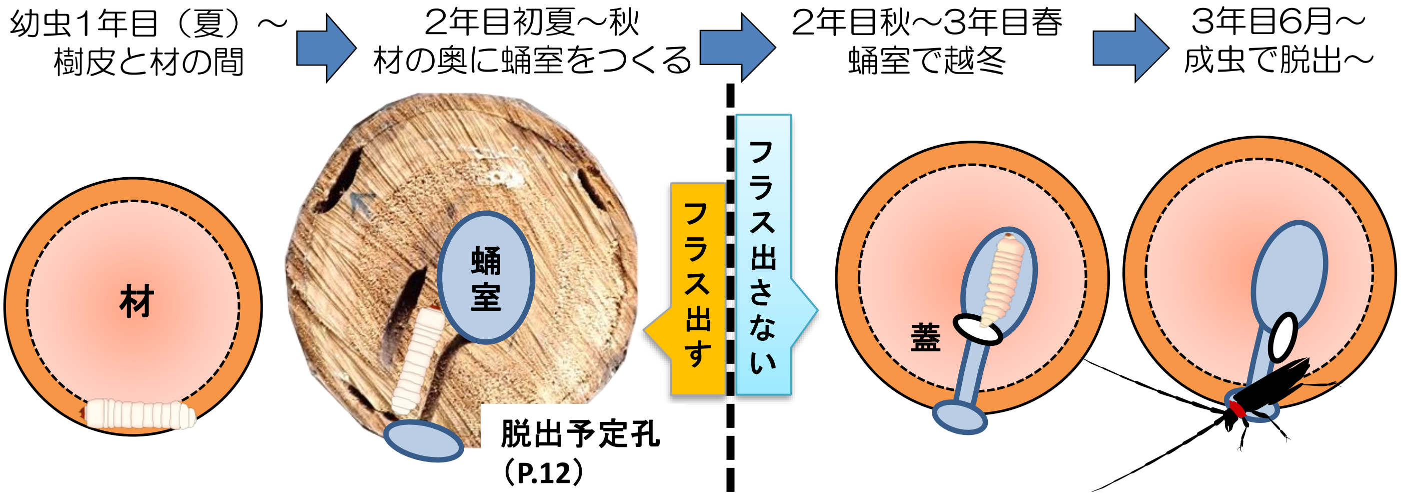
　フラスの排出がある食入孔を探し、ノミで周辺の樹皮を剥ぎ、新鮮なフラスが詰まっている方向に樹皮を剥ぎ続けて、先端にいる幼虫を掘り取ります。
　掘り取りには、樹体を傷めるリスクがありますので、慎重に判断ください。

【作業時期】4月～11月
【必要物品】ノミやドライバー

【注意】全ての木には管理者がいますので
無断で刺殺や掘り取りをして木を傷つけないこと！！

刺殺・掘り取りやエアゾール剤処理（P.10）の作業時期

幼虫のいる場所とフラスの様子（P.6）



少量・細いフラス　　大量・太いフラス

材の奥（掘り取れない＋薬剤が届かない）

幼虫が蛹室を作る前の、1年目幼虫の9～11月と2年目幼虫の4～6月を中心に作業

坑道が材の奥に続いている場合は発見が難しいので、脱出予定孔を封鎖（P. 12）

防風ネット等の巻き付けによる成虫の拡散防止と未被害木への産卵防止

　防風ネット等を被害木の樹幹に巻き付けて、樹から脱出した成虫を捕獲・殺虫し、ほかの樹への移動を防ぎます（下図）。なお、防風ネット等を巻き付けることが困難な部位（例えば、高さ２m以上の地点からフラスの排出が確認された枝など）は、伐採して取り除き、適切に処分してください（処分方法は、P. 7）。
　また、未被害木の樹体とネットに隙間をあけて巻き付けることで、メス成虫による産卵を防止します。

- 被害部位、あるいは保護したい部位が収まるようにネットを巻き付けます（目安：高さ２m程度まで）。
- ネット同士はホッチキスや針金でつなぎ合せ、木とネット上端はひもやガムテープで、ネット下端はペグで地面に固定します。
- 防風ネットを樹幹に密着させると、成虫がネットを噛み切るので、樹幹との間に隙間（親指大以上を目安）を持たせます。
- 防風ネット内での成虫の発生を定期的に見回ります（週2～３回）。
- 成虫は見つけ次第、ハンマー、あるいは化学農薬の噴射により（樹木類のみで登録あり。使用方法は、P. 11）、殺虫します

【作業時期】１０月～翌５月（成虫発生前まで）
【必要物品】防風ネット：目合い０.４～４mm程度（例えば、農業用防風ネット等市販品で良い）、ホッチキス、ひも、ガムテープ、ペグなど

防風ネット巻き付けの詳しい手順

当研究所のホームページ
http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/info/doc/2021031700057/
にある動画「クビアカツヤカミキリについて知ろう～ネット巻き編～」をご覧ください。

農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。

フラス排出孔に農薬を注入

【使用可能な薬剤】P.14

樹幹や根から排出するフラスを掻き出し、食入孔（フラス排出孔）に薬液を注入して樹内の幼虫を殺虫します。

(1)食入孔を探す

樹幹や根から排出するフラスをブラシなどで除いて探す。見つからない場合はフラスが落ちている場所の上部をこまめに探す。

(2)フラスを掻き出す

食入孔にフラスが詰まっていると薬液が幼虫まで届かないため、千枚通しなどで掻き出す。

(3)薬液を注入する

食入孔にノズルを差し込み、噴射する。薬液を食入孔に充満させるため、食入孔から薬液が少しあふれるまで噴射する。

【作業時期】４月～11月（参考：P. 8）
【必要物品】千枚通しや硬めのブラシ（できれば金属製ブラシ）、ゴーグル、マスク、ゴム手袋、防除衣（雨合羽など）、噴霧器など

農薬の樹幹注入（サクラのみ）

【使用可能な薬剤】P.14

樹幹の地際部に注入穴を開け、木の大きさに応じた規定量の薬液を注入し、注入穴を傷口癒合剤等でふさぎます。

幼虫は吸い上げられた薬剤を含んだ木質部を摂食することで死亡します。

(1)木の大きさを測定

根元の樹幹部直径等をメジャーで測定し、使用薬液量（や薬液注入穴の数）を決める。

(2)地際に薬剤注入穴を作成する

樹幹の地際に電動ドリルで薬液量に応じた数の注入穴を、樹体の斜め下向きに開ける。腐朽した部位は薬液の浸透が悪いので避ける。

(3)注入穴に薬液を注入しフタをする

注入穴に規定量の薬液を注入する。薬液が樹体内に浸透したことを確認し、注入穴を傷口癒合剤等でフタをする。

【処理時期】４月下旬～９月（新葉展開後から落葉まで）
【必要物品】ゴーグル、マスク、ゴム手袋、メジャー、電動ドリル、傷口癒合剤（薬液注入穴を蓋する資材）

農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。

薬剤噴射

【使用可能な薬剤】P.15

薬液を成虫に直接噴射します。
虫に直接触れずに、殺虫することができます。

【処理時期】６月～８月（成虫発生時期）
【必要物品】ゴーグル、マスク、ゴム手袋

薬剤散布（樹幹散布）

【使用可能な薬剤】P.15-16

調整希釈した薬液を成虫発生期６月～８月（下図：大阪府内における成虫の発生時期）に木全体に複数回処理します。

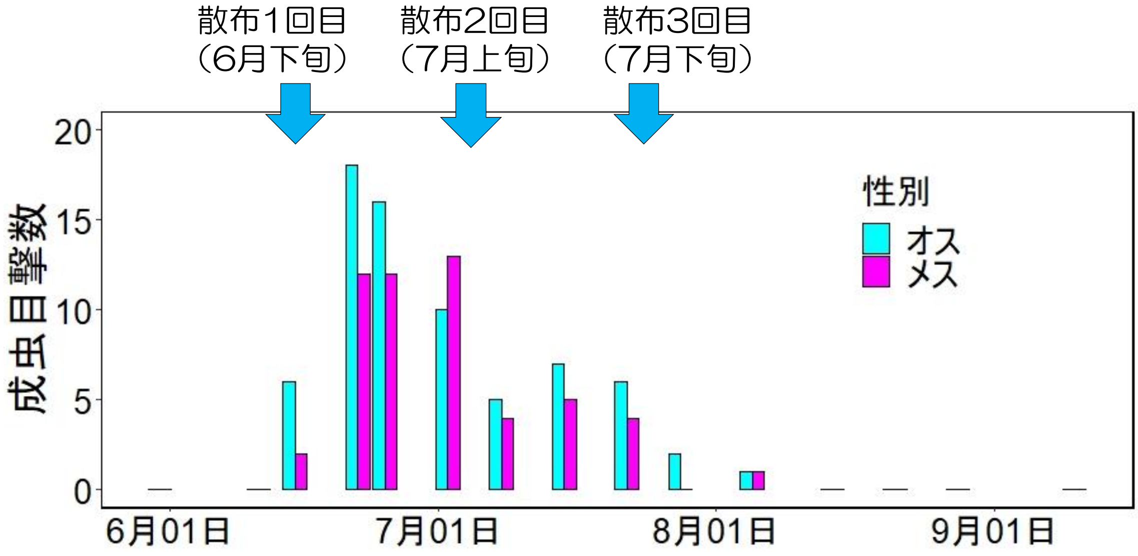
樹幹散布（サクラのみ）では、メス成虫が樹皮の割れ目に産卵することから、樹皮の凸凹にも浸透するよう丁寧に（高さ2m程度まで）散布します。

【処理時期】６月～８月（成虫発生時期）
【必要物品】ゴーグル、マスク、ゴム手袋、
　　　　　　防除衣（雨合羽など）、バケツ、噴霧器

大阪府内における成虫の発生時期と薬剤散布時期

大阪府内において成虫が多い6月中旬から7月中旬を中心に薬剤を散布します。

令和2年（羽曳野市）成虫目撃数の推移



農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。

被害木のくん蒸

【使用可能な薬剤】P.16

集積した伐倒木全体をくん蒸シートで覆い、くん蒸剤を処置した後、ガス漏れしないように地面に接したシートの部分に土を被せます。幼虫は気門を通してガス化した薬剤を取り込み死亡します。

気温が低い時期や、日陰の場合には、くん蒸期間を長くします。

なお、使用場所を十分に検討してください。

【処理時期】９月～３月
（蛹や成虫の羽化脱出時期を避ける）
【必要物品】ゴーグル、マスク、ゴム手袋
防除衣（雨合羽など）、くん蒸シート

ナラガシワ（カシノナガキクイムシ）でのくん蒸例

くん蒸シートで密閉

成虫脱出孔の封鎖

幼虫は蛹室をつくると同時に羽化後に脱出するための孔（脱出孔）を作ります。（P.9）
脱出（6月）より前に、樹木切口被覆材などで脱出孔にフタをして脱出を防ぎます。
硬めの粘土状資材で、6割くらいの成虫の脱出が防げます。

成虫脱出孔のサイン

キリトリ線のように薄く樹皮が残った楕円形の孔が、大量のフラスが排出されている孔の近くに作られます、

封鎖した写真

脱出孔から蛹の部屋に続く道を確認し、奥から順に資材で埋める。

【処理時期】１２月～４月
【必要物品】ゴム手袋、樹木切口被覆資材

農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。

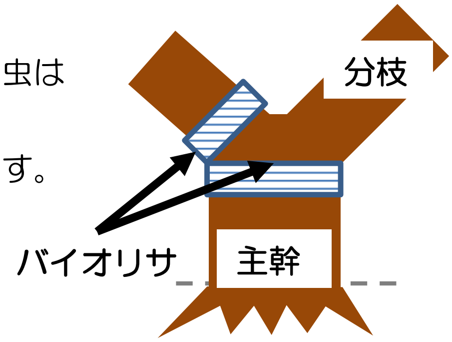
生物農薬

昆虫病原性糸状菌資材（商品名：バイオリサ・カミキリスリム）

昆虫病原性糸状菌が付着した不織布を樹幹の分枝部分等にかけて設置します。成虫が触れることで感染し、約２～３週間で死亡させます。

感染していても死亡までに２～３週間を要し、その間に成虫は交尾・産卵するので、成虫を見つけ次第捕殺します。

生きている菌を使った製剤なので、入手後すぐに使用します。



【設置時期】6月上～中旬（大阪府内の成虫発生初期）
【必要物品】ゴーグル、マスク、ゴム手袋、ホッチキス

天敵線虫製剤（商品名：バイオセーフ）

薬剤を注入する前に、食入孔のフラスを水で洗浄除去し、薬剤を隣接する食入孔から溢れ出すまで十分量を注入することで、樹内の幼虫を殺虫します。

乾燥や高温は線虫の活性の低下を招くため処理時は曇天が望ましいです。

入手後すぐに使用しない場合は、冷蔵庫で保管します。

製剤を水で希釈して使用

噴霧ノズルで注入

【処理時期】４月～１１月
【必要物品】ゴーグル、マスク、ゴム手袋、防除衣（雨合羽など）、噴霧器

TOPIC４　特定外来生物の防除対策に係る交付金事業の概要について

環境省は、「生物多様性保全推進支援事業」により、地域における生物多様性の保全再生に資する活動等に対し、活動等に必要な経費の一部（１／２以下）を交付しています。

特定外来生物防除対策（単なる伐採ではなく、対象種の防除を行うもの）も交付対象メニューとなっています。事業申請者は、「地方公共団体、又は、地域生物多様性協議会（地方公共団体等と、その他の主体で構成）」となります。例年、1～２月頃に募集が行われますので、活用を検討してください（年度ごとに事業の有無や公募要領を環境省HP等でご確認ください）。

なお、応募のあった事業の中から予算の範囲内で採択する事業が決定されますので、全ての事業に対して交付されるものではないとのことです。

クビアカツヤカミキリで使用可能な農薬一覧

食入孔への注入剤

名称 （有効成分）	IRAC コード	作物名	適用害虫	希釈 倍数	使用方法	使用 時期	使用 回数
ロビンフッド、 ベニカカミキリムシエアゾール （フェンプロパトリン）	3A	樹木類	カミキリムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	—	6回 以内
		もも、うめ、 おうとう				収穫 前日 まで	5回 以内
		果樹類 （上を除く）					
園芸用 キンチョールE （ペルメトリン）	3A	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	—	【専用ﾉｽﾞﾙつけかえ方式】 容器のﾎﾞﾀﾝを引き抜き、専用ﾉｽﾞﾙにつけかえ、食入部にﾉｽﾞﾙを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。 【2ｳｪｲﾉｽﾞﾙ方式】 折り畳まれた専用ﾉｽﾞﾙを引き上げ、食入部にﾉｽﾞﾙを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。	—	—
マツグリーン液剤2 （アセタミプリド）	4A	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	50倍	食入孔に注入	発生 初期	5回 以内
アクセルフロアブル （メタフルミゾン）	22B	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	100倍	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	—	6回 以内

樹幹注入剤

名称 （有効成分）	IRAC コード	作物名	適用害虫	使用量	使用方法	使用 時期	使用 回数
ウッドスター （ジノテフラン）	4A	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	注入部直径 6cm〜10cm:8〜12ml、10cm〜20cm:12〜24ml、20cm〜30cm:24〜36ml、30cm〜40cm:36〜48ml、40cm〜50cm:48〜60ml、50cm〜60cm:60〜72ml、以降、直径が10cm増す毎に12mlを追加する	樹幹注入	新葉 展開後 〜 落葉前 まで	3回 以内
アトラック液剤 （チアメトキサム）	4A	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	胸高直径（樹幹部） 6cm〜10cm 30ml、11cm〜15cm 60ml、16cm〜20cm 90ml、21cm〜25cm 120ml、26cm〜30cm 10ml、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30mlを増量する	樹幹注入	幼虫 発生前 〜 幼虫 発生期	3回 以内
リバイブ （エマメクチン安息香酸塩）	6	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	胸高直径（樹幹部） 6cm〜10cm 30ml、11cm〜15cm 60ml、16cm〜20cm 90ml、21cm〜25cm 120ml、26cm〜30cm 150ml、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30mlを増量する	樹幹部に注入孔をあけ、注入器の先端を押し込み樹幹注入する	発生前 〜 発生期	1回

噴射

名称 （有効成分）	IRAC コード	作物名	適用害虫	希釈 倍数	使用 方法	使用時期	使用 回数
ロビンフッド ベニカカミキリムシエアゾール （フェンプロパトリン）	3A	樹木類	クビアカツヤカミキリ（サクラ）	―	噴射	成虫発生初期	6回 以内
			カミキリムシ類成虫			―	

散布剤・樹幹散布剤

名称 （有効成分）	IRAC コード	作物名	適用害虫	希釈倍 数	使用方法	使用 時期	使用 回数
マツグリーン液剤2 （アセタミプリド）	4A	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	20倍	樹幹散布	成虫発生初期	5回 以内
				200倍	散布		
モスピラン顆粒水溶剤 （アセタミプリド）	4A	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	2000倍	散布	発生初期	5回 以内
		オウトウ				収穫前日まで	1回
		モモ、ウメ、スモモ、 小粒核果類（ウメ、 スモモを除く）					3回 以内
ダントツ水溶剤 （クロチアニジン）	4A	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	2000倍	散布	成虫発生初期	3回 以内
		ウメ				収穫前日まで	
		スモモ				収穫3日前まで	
		モモ				収穫7日前まで	
ベニカ水溶剤 （クロチアニジン）	4A	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	2000倍	散布	成虫発生初期	5回 以内
		ウメ				収穫前日まで	3回 以内
		モモ				収穫7日前まで	
アクタラ顆粒水溶剤 （チアメトキサム）	4A	モモ、ネクタリン	クビアカツヤ カミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回 以内
		オウトウ					2回 以内
		ウメ、小粒核果類 （ウメを除く）				収穫7日前まで	2回 以内
トルネードエースDF （インドキサカルブ）	22A	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	1000倍	散布	成虫発生初期	4回 以内
アクセルフロアブル （メタフルミゾン）	22B	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	200倍	主幹から株元 に散布	成虫発生直前～ 成虫発生期	6回 以内
		ウメ		1000倍	散布	収穫前日まで	3回 以内
ダブルトリガー液剤 （シクラニリプロール）	28	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	2000倍	散布	発生初期	2回 以内
テッパン液剤 （シクラニリプロール）	28	モモ、オウトウ、小 粒核果類	クビアカツヤ カミキリ	2000倍	散布	収穫前日 まで	2回 以内
ハチハチフロアブル （トルフェンピラド）	21A	モモ、ネクタリン	クビアカツヤ カミキリ	1000倍	散布	成虫発生期但し、 収穫前日まで	2回 以内
ベニカXネクストスプレー （クロチアニジンほか）		サクラ	クビアカツヤ カミキリ	原液	散布	成虫発生初期	6回 以内

散布剤・樹幹散布剤（続き）

名称 （有効成分）	IRAC コード	作物名	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	使用 回数
スミチオン乳剤 （MEP）	1B	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	1000倍	散布	成虫発生初期	6回 以内
		モモ				成虫発生初期但し、 収穫3日前まで	6回 以内
		ウメ				成虫発生初期但し、 収穫14日前まで	2回 以内
オリオン水和剤40 （アラニカルブ）	1A	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	1000倍	散布	成虫発生初期	5回 以内
		うめ、小粒核果類				成虫発生期但し、 収穫7日前まで	3回 以内
		モモ				成虫発生期但し、 収穫14日前まで	2回 以内
		ネクタリン				成虫発生期但し、 収穫21日前まで	
スプラサイド水和剤 （DMTP）	1B	ウメ、スモモ	クビアカツヤ カミキリ	1500倍	散布	収穫14日前まで	2回 以内
		モモ				収穫21日前まで	
スプラサイドM （DMTP）	1B	モモ	クビアカツヤ カミキリ	200倍	樹幹部及び主 枝に散布	収穫60日前まで	2回 以内
カルホス乳剤 （イソキサチオン）	1B	サクラ	クビアカツヤ カミキリ	1000倍	散布	成虫発生初期	6回 以内
スミパイン乳剤 （MEP）	1B	樹木類	カミキリムシ類 （スギカミキリ を除く）	50～ 150倍	樹幹散布	成虫の発生初期又は 直前	6回 以内

くん蒸剤

名称 （有効成分）	IRAC コード	作物名	適用害虫	使用量	くん蒸 期間	使用方法	使用 回数
NCS （カーバム）	8F	サクラ、モモ、 スモモ、ウメ(（全て伐倒木）	クビアカツヤ カミキリ幼虫	被覆内容積 1m3当り 原液1.0L	14日 以上	加害された伐倒木を配置し本剤を散布し、直ちにビニール等で密閉し、くん蒸する。	1回
キルパー40 （カーバムナトリウム塩）	8F	サクラ、モモ、 ウメ、スモモ （全て伐倒木、 枯損木）	クビアカツヤ カミキリ	被覆内容積 1m3当り 原液750～ 1500mL	14日 以上	加害された伐倒木を集積したものまたは枯損木に、所定薬量を散布し、直ちにビニール等で密閉し所定期間くん蒸する。	1回

生物農薬

名称	IRAC コード	作物名	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	使用 回数
バイオリサ・カミキリ	生物 農薬	サクラ・ 食用サクラ（葉）	クビアカツヤ カミキリ	1本／樹	主幹又は主幹の分 枝部分に巻き付ける	成虫 発生 初期	ー
		果樹類	カミキリムシ類		地際に近い主幹の 分枝部分等に架ける		
バイオセーフ	生物 農薬	サクラ・食用サクラ （葉）、モモ、ウメ	クビアカツヤ カミキリ	2500万頭（約 10g） 2．5Lに希釈	木屑排出孔を中心 に薬液が滴るまで樹 幹注入	幼虫 発生期	ー

若木への植替え

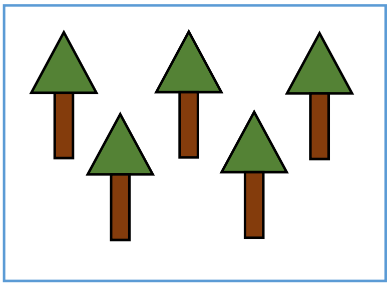
被害地の回復を図るためには、若木への植替えを行うことを検討ください。

同じ種類の若木を植えた場合、再び被害を受ける可能性があるため、継続した防除対策が必要となります。そのため、クビアカツヤカミキリ対策の手間やコストがかけられない場合は、被害を受けない植物（バラ科以外）への植替えも検討しましょう。

【植付け時期】厳寒期を除く落葉期（１２月～３月頃）
・留意事項：若木の成長促進や連作障害を避けるため、土壌の深耕や土壌改良資材の投与についても検討ください。

同種・近縁種の若木に植替え

対策の継続



バラ科以外の若木に植替え

クビアカよる被害を受けずに成長

住民への調査・防除の協力の呼びかけ

対策にあたっては、学校や公園、各個人の敷地での成虫の捕殺や見回りなど地域の住民の協力を得ながら取り組むことが効果的です。

公園等の施設においては、ネット巻きした樹木に捕らえられた成虫を逃がしたり、持ち帰ったりしないよう来訪者等への広報も重要です。

・留意事項：
- 特定外来生物は飼育等が禁止されています（P.4：TOPIC3特定外来生物の指定）。
- なお、外来生物法施行規則第2条（飼養等の禁止の適用除外）12項において、「地方公共団体の職員がその職務の遂行に伴い、緊急に引き取り、処分するために一時的に保管又は運搬をするものであること。」が定められています。

飼育せずにすぐに捕殺する!!

被害マップの作成・更新

防除対策を計画的に進める上では、「どこに、どれだけいるか」という被害マップを作成・更新することが効果的です。

視覚的に被害状況を把握することで、例えば、飛び地的に被害が発生した地区の対策を優先するなど、計画的な防除が行いやすくなります。

モモ・ウメにおけるクビアカツヤカミキリ防除マニュアル

大阪環農水研は、果樹類におけるクビアカ対策に特化した「モモ・ウメにおけるクビアカツヤカミキリ防除マニュアル」を新たに作成しました（2022年4月）。

果樹園主の皆さまには、現場での防除の際にご活用いただけると幸いです。

表紙

月	旬	モモ生育・栽培管理	幼虫（木くず）2年1化想定 1年目	2年目	3年目	成虫発生数	対象害虫	防除対策 散布剤（IRACコード）	散布剤以外を組み合わせる
4	上	開花		木くず出す（材の奥で蛹の部屋をつくる：6～11月）	蛹部屋の中				・エアゾール剤（P4） ・掘り取り（P4） ・ネット巻き（P8,9） ・脱出孔封鎖（P10） ・生物農薬（P10）
	中						（落花後）アブラムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	ロディー乳剤(3A)	
	下								
5	上				↓蛹				
	中						カイガラムシ幼虫	アプロード水和剤(16)	
	下	袋掛け					アブラムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	アディオン乳剤(3A)	
6	上				羽化脱出	少	クビアカツヤカミキリ、カイガラムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	スプラサイド水和剤(1B) 注：収穫前日数	・ネット内の成虫見回り（P8）
	中		卵→幼虫			中			
	下	収穫				多	クビアカツヤカミキリ、アブラムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	モスピラン顆粒水溶剤(4A)	
7	上						クビアカツヤカミキリ、カメムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	テッパン液剤(28)	
	中					中	アブラムシ類、カメムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	ロディー乳剤(3A)	
	下								
8	上			蛹の部屋に入った後は、木くず出さない		少	クビアカツヤカミキリ、アブラムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	モスピラン顆粒水溶剤(4A)	
	中								
	下		木くず出す				（収穫後）コスカシバ	トラサイドA乳剤(1B) ※樹幹散布	必要に応じてネットを外す
9～11							散布剤は、葉だけでなく樹全体に（幹にも）十分に散布すること 成虫を少なくすれば被害を減らせます		・エアゾール剤 ・掘り取り
12～3			活動休止						

モモの防除カレンダー

問い合わせ先

〇クビアカツヤカミキリについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

【外来生物法・特定外来生物に関すること】
環境省　近畿地方環境事務所　野生生物課
　　電話：06-6881-6505

大阪府　環境農林水産部　みどり推進室　みどり企画課　総務・自然環境グループ
　　電話：06-6210-9557

【農地や果樹園での被害に関すること】
大阪府　環境農林水産部　農政室　推進課　病害虫防除グループ
　　電話：072-957-0520

【輸出入（植物検疫）に関すること】
農水省　神戸植物防疫所　大阪支所　輸出及び国内検疫担当
　　電話：06-6571-0804

【本手引書に記載の内容等に関すること】
地方独立行政法人　大阪府立環境農林水産総合研究所　食と農の研究部　防除グループ
　　電話：072-979-7037

地方独立行政法人　大阪府立環境農林水産総合研究所　生物多様性センター
　　電話：072-833-2770

発行元　地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture

（2022年6月作成）